

情報ソース	ラオス略年表 青山利勝『ラオスー インドシナ緩衝国家の肖像』	メディア関連	宗教関連年表 林行夫「第0章 宗教」 ラオス文化研究所編『ラオス概説』	天理教名古屋大教会の活動	天理教ラオス巡回医療活動	ピラバンデ家の調査	ナムグム・ダム関連 コーエイ総合研究所 『メコン河流域の開発』	島崎一幸 (b.1947) 『ラダワン』	竹原茂 (b.1943) 『ラオス・日本、アジアに生きる』	麗澤関連	メコン・サークル Operation Brotherhood	沖繩関連 (琉)琉球新報 (分)沖繩タイムス	後藤生光 (b.1942)	山根良人	赤坂ロップ (1920-1985)
1941年		5月東京条約。フランスがラオス領の一部をタイに割譲。教育長官シャルル・ロシェの肝煎りで行われた「ラオス刷新運動」の一環で、ラジオ局開設、ラオ語新聞『ラオ・ニヤイ』発刊(第2巻:165)				カンハイ・ピラバンデ氏は戦後、王族の一族として活躍すると共に、シルク交易を中心として財をなす。									
1944年			*月父系名字を名乗ることを義務付け(林:214)	中山正善二代真柱を迎え、名古屋大教会設立50周年記念祭を挙げる											
1945年	3月日本軍ラオス進駐 4月ルアンパビン王国のシー・サヴァン・ウオン王がラオス独立を宣言 8月ラオ・イッサラ(自由ラオス)委員会発足 10月ラオ・イッサラ臨時政府成立														8月ヴェトナム・ヴィンで終戦を迎え、兵艦脱走 9月ヴェトナム・ゲリラの軍事訓練
1946年	3月フランス軍ラオス再進駐 8月フランス、シー・サヴァン・ウオン王による王国政府を樹立。ラオ・イッサラ臨時政府はバンコクへ移り亡命政権となる	10月インドシナ共産党の指導のもと、中部ラオスの解放区で『ベオファイ・トーターン(抵抗の炎)』発行(ヴァン:430)		千種洗池に神殿建設の報告祭を挙げる 「なごや幼稚園」開設		ピラネット・ピラバンデ誕生									6月ラオ・イッサラに参加して、ゲリラ兵の訓練 12月サワナケートからヴェトナムに向かって9号線を進撃してきた仏軍を国境のラオバオで迎撃
1947年			5月王国憲法(75年まで)。仏教の国教化。ヴィエンチャンに仏教研究所設立、各県に支所設置(林:214)				*月国連アジア・極東経済委員会(ECAFE、現在のESCAP)創立								1月ブーミ・ウォンヴィチットの命令でシェンクワンの宣撫作戦に参加 5月手榴弾の事故で右手を失う 「華商はアヘンの収穫期になると、馬を五頭、十頭と連れて、メオ族の部落へくる。雑貨、布地、その他山岳民族には珍しい品をつみ、それと交換でアヘンを買っわけだ。メオ族の男が着ているものが、ほとんど日本製の黒い布地で、…鏝筋のマークを発見して驚かされたものである。因みに、アヘンはバテ・ラオにとって大きな財源となっている」(赤坂:101) 9月前線に復帰 6月山根大尉と知り合う。共同作戦に従事
1948年															
1949年	7月フランスーラオス協定締結。フランス連合内のラオス独立が認められる 10月ラオ・イッサラ臨時政府解散														7月ボラファー(ブアラバ、現カムムアン県内)地区に転戦 10月ボラファー地区の政府軍指揮官と休戦協定を交わし、不足物資を融通しあう。「北ベトナムから軍用品を選び、それと交換に塩や薬品を…入手する」(赤坂:124)
1950年	8月スバズオン、ネオ・ラオ・イッサラ(ラオス自由戦線)を結成	*月ラオス自由戦線宣伝文化局、新聞『ラオ・イッサラ(自由ラオス)』発行(ヴァン:430)	1950年代、アメリカ人宣教師によるプロテスタント流入。遊行の脚院僧が、ルアンパビン周辺村の守護霊祭祀を謁伏(林:214)	なごや幼稚園は「平和保育園」に										5月指揮下の中隊を率いてラオス王国軍に帰順	10月サワナケート県アンカム地区に部隊移動
1951年	3月ラオス自由戦線はヴェトナム独立同盟、クルム抵抗派とインドシナ統一戦線を結成、フランスとの対決姿勢を強める 11月ブーマ首相による王国政府成立		*月サン方法(サンガ規則を制定する勅令・第62号)制定(林:214)												8月ヴィンで開かれた前線指揮官の連絡会議に出席。抗仏連合戦線の協力体制の確認。「金庫の成果として…北ベトナムからバテ・ラオへの補給が、目に見えてよくなった。新しい兵器、その他の装備のほか、キニーネ、ホウタイ、モルヒネなど、薬品の種類と量が豊富になった」(赤坂:133) 9月シェンクワン県モンモー地区に転戦。ジャール平原を掌握し北越をバックアップするため
1952年							5月ECAFE洪水調節・水資源委員会、メコン流域調査報告書を発表(最初の組織的調査)								
1953年	10月完全独立が承認される	8月ヴィエンチャンで初の月刊誌『ワナカティ・サン(文芸雑誌)』発行。編集主幹マハ・シラー・ヴィラウォン(ヴァン:439)													3月バテ・ラオと北越によるラオス北部制圧開始。シェンクワン捕虜収容所の所長に任命される。「近くの華商たちは、収容されているメオ族のために、布切れや食料その他をどんどん寄付してきた。…将来の取引のとき有利になるという商売上の判断からだ」(赤坂:145)
1954年	5月ディエンビエンフーにおけるフランスの敗北 8月ジュネーブ和平会議により第1次ジュネーブ協定締結 9月東南アジア条約機構SEATO発足 11月サリット政権(右派)成立 12月フランスとインドシナ三國、経済協定に調印。「インドシナ三國の統一関税制度が撤廃された結果、陸路数千キロのサイゴンの商社を通ずる輸出入ルートにしばられていたラオス経済はややと解放された。これ以来、輸出入の大部分が、タイのバンコク経由で、陸路ビエンチャンの対岸のアンカイまで鉄道で運ばれるルートに転換された」(赤坂:147)		54-56年ごろ、バテ・ラオ、「ラオス仏教協会」設立。56年に、事実上第1回となる全国仏教僧代表者大会(林:214)												4月シェンクワン県副知事(補給担当)に任命される 9月ジュネーブ協定違反の容疑で政府軍に逮捕される(政府軍支配地域に残留していた容疑) 12月休戦監視委(IIC)、ラオス政府双方の裁判で無罪判決。ヴィエンチャン残留
1955年	3月ラオス人民党設立(インドシナ共産党ラオス支部の改組)。第1回党大会開催			森井敏晴が(26才)が4代会長に就任。中山正善2代真柱を迎えて奉告祭											8月首相官邸の護衛長になる。「インドシナ情勢が一応落ち着いて、日本人、特に商社の人たちがバンコクからビエンチャンに入ってくるようになった」(赤坂:165) 9月日本大使館事務所開設。駐タイ大使兼任大使とサリット首相の会見で通訳をつとめる 8月東京銀行ヴィエンチャン支店開設。東銀に入る
1956年	3月ブーマ政権(中立派)成立						3月アメリカ開拓局(USBR)、メコン河流域調査報告 4月国連ECAFEによる第1次メコン河下流域調査(日本工営久保田豊が顧問として参加) このころ(記憶違い?)久保田、スバズオンと会談。水力発電開発構想を披露 3月対日賠償請求権を放棄 9月メコン委員会の設立(水資源開発に関わる下流域4カ国の利害調整を目的として) 11月第2次国連ECAFE流域調査(ウィーラー・ミッション)					11月タットアン祭会場に診察テント開設			
1957年	11月第1次ブーマ連合政権成立。ブーマ政権と左派との間でヴィエンチャン協定成立。バテ・ラオはネオ・ラオ・ハクサート(ラオス愛国戦線)という政治組織として公認される		仏暦2500年。ルアンパビンで僧侶による水牛供養の禁止説法(林:214)	神殿普請工事着工											1月08ボランティア派遣開始
1958年	8月サナニコン政権(右派)成立。第1次ブーマ連合政権瓦解						10月日本・ラオス経済協力協定締結。日本政府、10億円の無償資金供与(大部分はヴィエンチャン市水道工事)								
1959年	10月サヴァン・ワッタナ王、即位		*月勅令でサンガ組織改正。世俗権の介入、寺院建立が許可制に(林:214)								*月奥平定世ラオス調査開始				

情報ソース	ラオス略年表 青山利勝『ラオス— インドシナ植民地国家の肖像』	メディア関連	宗教関連年表 林行夫「第8章 宗教」 ラオス文化研究所編『ラオス概説』	天理教名古屋教会の活動	天理教ラオス巡回医療活動	ピラバンデ家の調査	ナムグム・ダム関連 コーエイ総合研究所 『メコン河流域の開発』	島崎一幸 (b.1947) 『ラダワン』	竹原茂 (b.1943) 『ラオス、日本、アジアに生きる』	麗澤関連	メコン・サークル Operation Brotherhood	沖繩関連 (琉)：琉球新報 (分)：沖縄タイムス	後藤生光 (b.1942)	山根良人	赤坂ロップ (1920-1985)
1960年	4月ソムサニット政権成立 6月コンレー大尉のクーデター。プー マ政権(中立派)成立 12月ソヴァン將軍(右派)が米、タイ の支援を得てヴィエンチャンを攻撃占 領。コンレー軍と中立派は、ジャール 平原のカンカイに本拠を移す	8月バテトラオ、フアハン県でラジオ放 送開始(ヴァン:433)	60年代、ウム(カム)族出身の仏教 僧らが、ラオ・タウンの仏教改革をす ずめる(林:223)	神殿落成奉告祭			9月日本政府、支流調査(第3次) 12月ダム測量チームの日本人技師水 死		リセ・ヴィエンチャン(フランス高等学 校)3年生に編入		6月ヴィエンチャン OB病院開設				4月辻政信を見送る
1961年	4月辻政信、ヴィエンチャンを出発して 消息を絶つ 5月チュリット協定(中立派、左派、 右派の3者による基本的合意) 12月ジャール平原会談(3派による開 議配分を協議)						2月日本工営、ナムグム・ダム開発計 画フィージビリティ調査と契約				*月ラオス人看護士 養成コース開始				
1962年	11月ジュネーブ会談 6月第2次プーマ連合政権成立 7月第2次ジュネーブ協定締結						麗澤大学の奥平定世教授がビ エンチャンの商工会議所会頭で あったカンバイ・ピラバンデ氏よ り、農業開発指導の要請を受 け、麗澤・カンバイ農場を指導 開発する話し合いが成立。								
1963年	4月ボンセナ外相暗殺事件		*月バテトラオ、「ラオス仏教協会」 を「国家ラオス仏教協会」に改組 (林:214)	小川蔵太郎(なご幼稚園の 園医、ビエンチャンにて開業して いた)が来訪し、ラオスへの支援 を要請。											
1964年			仏教寺院総数2147、僧侶・見習い 僧総数1万7千。60年代半ば頃、 パリー初等学校が全国に150校 (林:214)				8月フィージビリティレポート最終版完 成。世界銀行に融資依頼するが、ラオ ス政府の借取信用度がないことを理 由に拒否される		6月リセ卒業		*月レイタク・カムバイ農 場設立				1月日本大使館に補助職員として勤務
1965年	2月アメリカ北爆開始		*月ヴィエンチャンに青年仏教徒協 会(林:214)				4月ジョンソン大統領、東南アジアに10 億ドルの援助提供を発表 5月メコン委員会の働きかけにより、米 政府、他の諸国から残りの資金が提 供されるのを条件に、必要資金の2分 の1を無償提供することをコミット		4月日本政府国費留学生として来日。 東京外国語大学で日本語を学ぶ						
1966年				森井敏晴大教長、ラオス及び 東南アジア諸国に渡航	8/31~9/14、山本俊平医 師、山本利雄医師ラオス視察。		5月ナムグム基金協定(総額2857万ド ル)アメリカはじめ9カ国による共同拠 出。うち日本の拠出総額約500万ド ル)。設計業務コンサルタントに日本工 営	*月日ラオ農牧実習センター、タゴンに 設置	5月在日ラオス留学生協会を発足				4月青年海外協力隊 5次隊でタゴン農事 試験場派遣		ラオス政府管理の医療施設は、国立病 院5、野戦病院14、診療所97、ライ病院 3の計119で、ベッド数は737。衛生省の 医療要員は医師5人、薬剤師2人、歯科 医1、産婆13をはじめ合計751人(当年 現在)。(赤坂:209)
1967年				株式会社日晴を設立。 合併会社ラオス・日本産業開発 会社(SILJA)をビエンチャンに 設立。布教所の隣で自動車修 理工場を開設	7月、天理教海外医療対策委員 会の代表として森井敏晴代表が 来日。ラオス政府と交渉を重ね た末、ジャール平原の南西端 バンクワンを診療活動の予定地 とする。 10 月、ラオス国厚生大臣シスマン・ シナルムサク閣下が来日。中山 正善天理教2代真柱と会談し て、天理医療隊のラオス巡回医 療決定についての謝辞を述べ る。12月、名古屋大教会より 巡回診療車2台をラオスに寄 贈。	半官半民企業としてカンバイ・ピ ラバンデ社設立	2月ナムグム工事開始								8月現在の在留邦人数144人。協力隊 関係56人、商社関係(東京銀行、日ラ オ貿易協会、日本工営、博愛病院)22 人、コンボ・プラン関係21人、日本大 使館関係21人、米大使館関係22人など (赤坂:216) 10月27年ぶりに一時帰国
1968年	1月ヴェトナム(南)ベトナム民族解放 戦線)のテト攻勢 5月パリ和平会談(ベトナム戦争) 11月アメリカ北爆中止			1月布教所建設の地鎮祭 9/11ラオス王国宗教省より 「布教認可」を取得。 ラオス布教所の開設、初代所長 に金森勝義	1/16~3/19ラオス巡回医 療第1次隊(山本利雄隊長)5名 派遣	ピラチット・ピラバンデ氏大蔵万 博見学に来日。 ラオス・日本産業開発会社(SIL JA)設立に側面より参画	9月間組によるダム発電所主体工事開 始(工事期間38ヵ月間。期間平均して 84人の日本人、170人のタイ人技能 工、1075人のラオス人が現場に投入さ れ、昼夜2交代制で工事が続けられ る)		4月一橋大学入学。						
1968年				都留田秀明が2代目所長で赴 任。6月最初のラオス人信者誕 生	1970年12月~71年2月第2次 隊(山本利雄隊長)5名派遣 9月~12月第3次隊5名(山本 利雄隊長)派遣	ピラチット・ピラバンデ氏イギリス に留学	1月工事現場のダイナマイト盗まれ、 政府軍キャンプが攻撃される 3月工事用重機がバテトラオに銃撃さ れる 3月~5月間組の日本人11人がマラリ アで帰国。以後、日本人への予防薬 服用を徹底 6月マラリア患者91人、翌月間125人 7月アメリカ開発庁(USAID)キャンプと 政府軍キャンプが襲撃を受け、バテ トラオと交戦 8月プーマ首相、工事現場の非武装中 立化を提唱。		1月カムバイ氏が来日して麗澤大学 学長と会談、ウドム氏通訳を勤める。 以後、麗澤海外開発協会の発足に向 けて協力	1月ラオス商工会議所会 頭カンバイ氏を財団設立 事業計画書の打ち合わせ のため日本に招待					
1970年	2月プーマ首相ジャール平原の中立化 を提案		*月サン方法改正の勅令。仏教寺院 数1833、僧・見習い僧4316人。減少 理由不明、バテトラオを除外したた めか(林:214)		8月~9月第4次隊5名(天野博 之隊長)派遣		2月ラオス人労働者すべてにマラリア 予防薬配布、服用を徹底(翌年2月か ら家族にも配布、スイス・ロチェ社、日 本の第一製薬からの寄贈)また、WHO のマラリア撲滅キャンペーンで近隣地 区にDDT散布	1月青年海外協力隊13次隊でラオス派 遣(総勢20名。同期にめこんの桑原 麗)。アジア開発銀行(ADB)と日本政 府によるタゴン農場整備(800ha)に 関する農業土木の技術指導 2月バテトラオの乾季攻勢。安全確保 のため、日本人はヴィエンチャンからタ ゴンへの通勤に切り替え 8月水路設計変更測量	3月大阪万博ラオス館副館長に就 任。一橋大学卒業 10月結婚	養蚕、試験飼育。森林 (8ha)開墾。養蚕技術指 導員派遣		3月JICA専門家とし てタゴン派遣			
1971年					5月~8月第5次隊5名(天野博 之隊長)派遣		10月ダム開発の延長線上に、アジア 開発銀行と日本政府が資金提供して タゴン農場の造成開始(74年に完成) 水没する森林によるダムの富栄養化 を防ぐため、USAIDから枯葉剤の散布 が提案されるが、辞退 12月ナムグム竣工。第2期工事コンサ ルトの入札で、スイスの会社が選 定され、日本工営は撤退		4月日本工営海外開発部で研修 7月長女誕生。外務省研修所ラオス 語講師						
1972年	2月ラオス人民党がラオス人民革命党 に改称。第2回党大会開催 10月ヴィエンチャンで和平のための会 談開始			5月沖縄県農業試験場の全面 協力を得て、栽培技術の研修を 実施。9月第一物産技師岡本 哲郎、沖縄県サトウキビ栽培農 家西村農助、教会信者菅原親 一の3名、同試験場保寿のサ トウキビ品種NCO等11種の分譲 を受け、ラオスに持参。試験栽 培を始める。11月沖縄県農業 試験場農産作室主任研究員久員 晃尋がサトウキビ栽培の適正調 査と指導のため、ラオスに赴 任。バンホーン地区の開墾地で 1haの植え付けを行う。	7月~10月第6次隊(天野博 之隊長)5名派遣 10月山本利雄医師日本政府の 今後の医療援助について視察 11月~75年1月天野博之医師 タゴンヘルセンターにて医療 活動	ケマサ・ピラバンデ氏天理大学・ 近畿大学に留学		1月結婚。退任で帰国 3月青森の牧場で働き始める。ラオス人 女性との結婚がマスコミに取り上げられ 話題になる	4月麗澤海外開発協会嘱託 11月ラオスへ帰国	3ha分7,500本の桑苗を 植える。収穫量400kg。蚕 室、堆肥舎、消毒用プ ール、給水塔の建築。					
1973年	2月ラオスにおける平和回復と民族和 合の達成に関する協定締結				9月前年植え付けのサトウキビ を収穫。精度測定の結果も良 好。布教所員も毎週日 曜日の強制労働に参加。	1月~5月第7次隊(高橋森生 隊長)5名派遣			1月長男誕生 4月ラオス政府経済計画省国際協力 課課長に就任。バン・ナボーク、バン ・ナボンに難民村建設	園芸技術者の派遣					
1974年	4月第3次プーマ連合政権成立			バン・マクナオ地区で2haの土 地を確保し、キビなえを新植。バン ・マクナオ地区で栽培用地を2 0haに増殖。	11月第8次隊(天野博之隊長) 2名派遣				4月次女誕生 10月留学生として再来日。一橋大 学大学院に入学	畜産専門家の派遣。収 穫量300~500kg。					
1975年	4月サイゴン陥落 12月ラオス無血革命達成。全国人民 代表会議開催。サヴァン・ワッタナ 王退位宣言により王政廃止及びラオ ス人民民主共和国の樹立を決定	共和国の成立により、ヴィエンチャン 政府体制下の新聞、雑誌数十種、9カ 所のラジオ局が活動停止(ヴァン: 433)					*月メコン委員会活動休止		4月青年海外協力隊講師	5haの桑園造成。3haに 桑苗の植付け実施。収穫 量611kg。					

引用資料

- | | | |
|-------------------------|---|---|
| NNA: Global Communities | 「インタビュー: アジア日本人群像 第44回 後藤生光さん(ビエンチャン)・日本の農民魂、ラオス一筋に」
(2001/8/31) | http://nna.asia.ne.jp.edgesuite.net/free/interview/gunzou/gunzou44.html |
| 沖縄タイムス | 「特集 ASIAに翔く 沖縄国際都市への道 ラオス編」
(1997/1/21-1997/2/18) | http://www.okinawatimes.co.jp/spe/i/index.html#asi1 |
| 琉球新報 | 「<新宮製菓>ラオス産モチ米粉初入荷」
(2003/11/20) | http://ryukyushimpo.jp/news01/2003/2003_11/031120ed.html |
| 財団法人麗澤海外開発協会 | | http://www.reitaku.or.jp/index.htm |
| 青山利勝 | 1995 『ラオスーインドシナ緩衝国家の肖像』 | 中公新書 |
| 赤坂勝美 | 1968 『隻腕の斬込み隊長ー仏軍を震え上がらしたラオスの元日本兵』 | 毎日新聞社 |
| ヴァン・スト | 2003 「第16章 マスメディア」ラオス文化研究所編『ラオス概説』 | めこん |
| 菊池陽子 | 2003 「第6章 現代の歴史」ラオス文化研究所編『ラオス概説』 | めこん |
| コーエイ総合研究所
吉松昭夫・小泉肇 | 1996 『メコン河流域の開発ー国際協力のアリーナ』 | 山海堂 |
| 島崎一幸 | 1973 『ラダワンーラオスからきた花嫁』 | 文遊社 |
| 竹原茂 | 2004 『ラオス・日本、アジアに生きる』 | 麗澤大学出版会 |
| 林行夫 | 2003 「第8章 宗教」ラオス文化研究所編『ラオス概説』 | めこん |